

## 皆野アルプス・破風山（はっぷさん）627m（個人山行）

報告：赤澤 東洋

◎期日：2024年4月26日

◎メンバー：赤澤他1名（妻）

埼玉生まれで埼玉育ちでありながら埼玉にはロクな山が無いとかなり冷淡、郷土愛にはいささか欠けていたものだが末期高齢者となり体力減退、車の運転もままならなくなり駅から歩ける低山へと宗旨替え中。まずは地元からと昭文社発行の「山と高原地図/奥武蔵・秩父」を購入し秩父路・「はっぷ山」に注目した。調べていくと10数年前に地元の山岳会が切り開いた新道があり地図に添付された案内文には皆野アルプスと紹介されている。この一帯は1884（明治17）年、世を騒がせた秩父困民党蜂起の舞台となった地で、風布（ふっぷ）、風戸（ふっと）、越辺（おっぺ）、乙父（おっち）だのという地名も面白い。

高崎線熊谷駅で秩父線に乗り換える。創立125年のローカル鉄道、県人ながらこれが初めての乗車だったが、長瀬で止まってしまい「ありゃりゃ!」。これからはもう少し地元埼玉に目を向けていかねばと思う。30分程待ち次に来た三峰口行きに乗り替え皆野で降りる。登山口は数ヶ所あり、上州の山に詳しい打田鏡一氏は「関越道の山88」1998・6刊で皆野町営バスを利用し北側の風戸（ふっと）からのコースを紹介しているが、我等は皆野駅から歩ける新道「山靴のみち」へ向かう。2006年4月、秩父の「山靴の会」有志が切り開いた新道との事で地元では「皆野アルプス」と称し目下売り出し中との由。

県道を進み、荒川の皆野橋、赤平川の郷平橋を渡ってすぐに左側に入り、更に町道を進むと畑の中に「大淵登山口・皆野アルプス前原尾根コース」の看板があった。ここまで少し分かり難く、途中2ヶ所位道標が欲しいところだ。

すぐにクヌギやコナラ等雑木林の幅広の山道となり「クマ出没・注意」の看板と共に入山者調査カウンターが設置されていた。山道はよく整備され歩き易く先年の会津の山々、大博多山や要害山、蒲生岳のように連続して垂れ下がるトラロープや木の根に縋って急登に息を切らす等というような事がないのがいい。樹林帯の中、見晴らしはないが新緑の初々しい若葉に目を奪われ疲れも癒される。やがて杉林となり最初のピーク前原山347m着。

ここからヤセ尾根となり松林の中「前原岩稜」の標識あり少し見通しも効くようになり小さなアップダウンの連続となる。三叉ピークを過ぎ杉林の中ロープ帯も出てきていかにもアルプスらしくなり息も苦しくここらが本コースの核心部だろう。



大淵登山口



前原山

男体拝（なんたいおがみ）のポイントに出ると北側が開け、秩父温泉・満願の湯のある風戸集落方面が望まれた。天気が良ければ男体山が見えるのかもしれないが、今日は春霞みかかって遠望はない。「山靴の道」の標識を過ぎ明るく広い杉林の中を行くと風戸登山口分岐となった。この山は風戸から登り秩父華厳の滝側に下る方が距離も短く急登もなく一般的らしい。

明るい雑木林の小尾根を行き、奇岩という猿岩を越し南へと向かい木の階段を登れば平坦になり休憩舎が見えてきて頂上はすぐ先だった。頂上は馬酔木（アセビ）の自生地として知られ丁度満開、南に秩父盆地を隔てて武甲山、西にギザギザ両神山と埼玉を代表する二山を中心に大展望が広がり満足、満足。埼玉の山も捨てたもんじゃない事を確認した。



破風山頂より両神山



破風山山頂

下山路は椋神社へ下る桜ヶ谷コースとしたが、こちらは山道というよりも殆んど農道と車道を歩くようになり時間も短く楽ちゃんではあったが山慣れた人には物足りないに違なくいかがなものかと思う。尚、椋神社といえは明治 17 年の秩父事件の際に農民 3000 人が最初に結集し氣勢を挙げた地として有名だが、この地方には何力所も椋神社があってそちらは現秩父市下吉田の椋神社であり延喜式神名帳にも記されている古社。こちらは明治 40 年頃近在の小さな神社を結集し椋の名を冠したものである由。折を見て今度は北側秩父華厳滝口から風戸へと歩いてみたいと思う。



満開の馬酔木（アセビ）

#### 《コースタイム》

皆野駅 9:35⇒10:40 前原山⇒12:00  
男体拝⇒12:50 破風山頂上 13:15⇒  
14:50 皆野駅



皆野駅ホームより破風山（左奥のピーク）